

# 東照宮へ、ロマネスク日光街道⑥杉戸宿～幸手宿～栗橋宿

日時：2023年2月25日（土） 天候：晴のち曇 歩数：24000歩 距離：16km

集合：東武伊勢崎線東武動物公園駅10時00分

コース：東武動物公園駅→杉戸宿本陣跡→「角穀」小島定右衛門邸→宝性院→古民家渡辺邸→大島稻荷神社→茨島一里塚跡→ファミリーレストランココス→神宮寺→志手橋→神明神社→元醤油醸造岸本家→かりんとうの花小路店→トロッコ横町鉄道の永文商店→幸手宿問屋場跡→幸手宿本陣・知久家跡→幸宮神社→聖福寺→正福寺→幸手一里塚跡→内国府間交差点→権現堂公園→50km標柱→日光街道道しるべ→外国府間雷電神社→小右衛門の一里塚→南栗橋駅

参加者：熊坂(L) 奥村(SL) 勅使河原 吉越 平石 高橋文 奈良 清水 市村 山田 高橋友  
脇坂 鈴木考 篠 三浦 計15人

「東照宮へ、ロマネスク日光街道」6回目、熊坂リーダーから「杉戸宿は宿場らしい枡形と古民家が残っています。杉戸宿を出ると7km程で幸手宿に着きます。下見の結果、東武動物公園駅～幸手駅が約8kmと距離が短いことがわかり、杉戸宿から、⑦幸手宿～栗橋宿コースの半分まで歩いてしまうことになりました」との連絡。東武動物公園駅に15人が降り立ちました。

さいたま市のこの日の最低気温は2.4℃、最高気温は10.4℃、北風を受けてのウォーキングとなりましたので体感温度はかなり低かったと思います。



小右衛門の一里塚

## 東武動物公園駅 10時10分～杉戸宿本陣跡～「角穀」小島定右衛門邸

東武動物公園駅は、1899年（明治32年）8月27日に東武鉄道の開業と同時に杉戸駅として開業。1981年に東武動物公園開園に伴い東武動物公園駅に改称、西口からバスが運行されていました。10時、駅構内で熊坂リーダーがコース説明。東口から10時10分にスタート、晴。冷たい風が吹き抜ける大落古利根川（おおおとしふるとねがわ）の古川橋を渡り、杉戸宿の石柱がある広場でストレッチ。日光街道に出て左折、直ぐに杉戸宿本陣跡へ、門が残っていました。宿場の特徴のひとつである町端の「枡形」、その道沿いに堂々たる風格を見せる古民家の「角穀（かどこく）」小島定右衛門邸がありました。



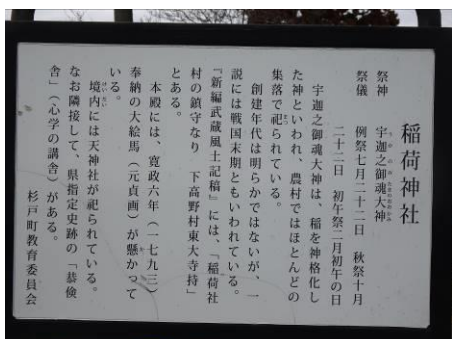
## 枡形を右手に折れて真北に～宝性院 不動堂 本堂 杉戸七福神だるま

小島定右衛門邸（マップの③）の隣りに杉戸宿の案内版がありました。日光街道は、ここが枡形になっていることが分かり、右に折れて真北に進みます。少し進んだ左手が宝性院、永禄3年（1562年）に幸城主の一色義直公が安産と子供の成長を願い安産不動明王を安置したことが始まり。山門をくぐって右手に不動堂、正面に本堂。杉戸不動尊は人々の願いを託す日光道中の祈願所として信仰を集めました。本堂賽銭箱の横でかわいらしい杉戸七福神だるまが販売されていました。宝性院は毘沙門天です。



## 渡辺邸～正面から寒風～大島稲荷神社～茨島一里塚跡～11時35分 ココス

宝性院を出て少し進んだところにマップ①の古民家渡辺邸がありました。門柱に「電話三番」の表示。磁石式電話時代のもので、3番ですからよほどの名家だったと思われます。この時代の電話機が、10月22日に訪れた草加市歴史民俗資料館に展示されていました。正面から寒風を受けて歩き、国道4号と合流。ひたすら北上していくと飲食店などが現れ始め、11時10分に大島稲荷神社へ。併設して江戸時代の心学者大島有隣と関口保宣が村人たちを教えた教検（校舎）が残っていました。さらに北上、杉戸宿と幸手宿の中間にあった茨島一里塚跡、杉戸高野台駅前通り、幸手市に入り11時35分に昼食場所の「ココス」へ到着。



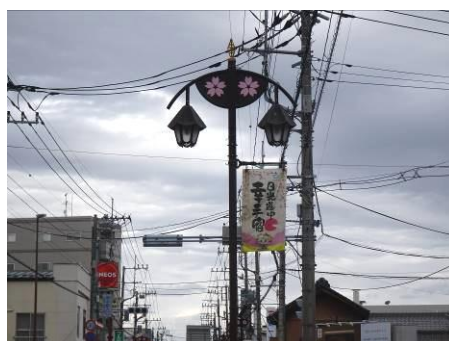
## すっかり曇り強い北風 12時25分～圏央道下～御成道と合流～神宮寺

店内に入ると暖かい、12時前でしたがお客さんがかなり入っていました。空いているテーブルに分かれて着席。私たちのグループは4人とも鰯カキフライ定食、ロボットが運んできてくれました。お腹いっぱい、身体も温まり店外へ、すっかり曇ってしまい強い北風が吹いています。今日の行程地図3枚のようやく1枚が終わろうとしているところ、12時25分に午後のスタート。国道4号と分かれて東武鉄道の踏切を渡り、圏央道の下を通り、日光街道を歩きます。東照宮に参拝する代々の将軍が通行した、川口、鳩ヶ谷、岩槻、幸手に至る御成道と合流しました。12時55分、神宮寺に到着。「源頼朝が奥州征伐の途上で愛鷹を逃したが、この寺で祈願し無事に捕まえたところから鷹尾山誓願院神宮寺と命名された」と伝わっています。



## 六地藏～志手橋交差点 志手橋～神明神社 几号高低標～日光道中幸手宿

六地藏に見送られて神宮寺を出ます。志手橋交差点へ出ました。右へ行くと国道4号に合流、直進して志手橋を渡ります。伊勢皇大神宮の分霊を祀った神明神社に着きました。志手橋を渡ったこの周辺は幸手宿の入口で、江戸時代には高札場がありました。鳥居横に「几号高低標」がありました。明治7年(1874年)にイギリス式の測量方法が導入され、東京・塩竈間の水準測量を行った際に神社の鳥居や灯籠等に設置されたもので、横線は測量に用いた平板を表し、下の部分は三脚を表しています。幸手宿商店街に入りレトロな街灯に「日光道中幸手宿」の幟がさがっていました。幸手駅前通りまで来ました。



# 元醤油醸造岸本家～かりんとうの花小路店～トロッコ横町鉄道の永文商店

日光街道と幸手駅前通りが交差する四つ角まで来ました。左手奥に幸手駅駅舎が見えます。その四つ角に国登録有形文化財の「元醤油醸造岸本家」が再生されていました。敷地の一角に「歴史を感じるまち幸手」の案内版があり、幸手宿場町の活性化を図ろうとする意気込みを感じます。住所は幸手市南町から中町になっていました。小粋な店構えの「花小路」へ、「油で揚げずにサクッとひとくち」焼きかりんとうをお土産に購入。案内板③の酒類販売業永文商店へ、荷捌き用のトロッコ「横町鉄道」がありました。



## 幸手宿問屋場跡～幸手宿本陣・知久家跡～幸宮神社 本殿彫刻 集合写真

13時40分、中央商店街ポケットパークで小休憩。ここは幸手宿問屋場跡です。近くには本陣跡があり、商店・旅籠屋・茶屋などが軒を連ね賑わったところ。問屋場跡の向かいに幸手宿本陣・知久家跡がありました。日光街道を少し進んで左に入り、創建から400年以上の歴史を持つ幸宮神社へ。現在の本殿は、文久3年(1863年)に再建されたもので総檜づくり、正面扉の両脇に昇り龍・下り龍が刻まれています。本殿の周りには獅子・鳳凰・天邪鬼・鷹・松などが彫刻されています。みなさん本殿脇から覗き込んでいますが、見えたのでしょうか。本殿前でこの日初めての集合写真を撮りました。



## 聖福寺 唐門の勅使門～正福寺 石仏群供養塔～幸手一里塚跡～北地区へ

幸宮神社の次は聖福寺、幸手宿の中心街ですので見所が続いています。聖福寺は、江戸時代には将軍や日光例幣使の休憩所になりました。石柱を通ると唐破風の唐門勅使門が見えてきました。門の屋根の上から覗んでいるのは鬼瓦でしょうか。境内の奥に、「将軍の間」の欄間彫刻が左甚五郎作といわれる本殿があります。隣の正福寺へ、大きな石灯籠の参道を進んで行くと、以外にも本殿は鉄筋造りでした。境内に墓石がピラミッドのように積み上げられた石仏群の供養塔がありました。聖福寺の門前のところに幸手の一里塚跡、最近作られたのでしょうか小ぶりな一里塚です。一里塚を過ぎると、住所は幸手市北地区に入りました。







## 鶏3羽～小右衛門一里塚～16時30分南栗橋駅 2万4000歩 16km

畑に鶏が3羽、リーダーの後に2羽が続きます。「ウォーキングクラブみたいね」、心和む一コマでした。幸手宿と栗橋宿の間にある小右衛門の一里塚に着きました。塚の上には近くから移築した弁財天堂が建っています。山田さんが塚の下から集合写真を撮ってくれました。南栗橋駅を示す標識が出てきました。ここあたりからは栗橋宿のようで、この日の日光街道はここまで。駅方向へ進み、大堀公園でクールダウン。16時30分、南栗橋駅へ着きました。2万4000歩、16km、見所いっぱい日光街道⑥でした。



(いちむら記)